

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaiyokai.com

http://yuaiyokai.com

発行人：川手正一郎

編集人：鶴巻克雄

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

日中緑化交流基金 中国植林活動

視察訪中実施 植林事業10年経過

黄土の山が緑の山に 小鳥も虫も集まる生態系が出現

日本友愛協会の続けている事業の一つに中国に於ける植林活動がある。日中緑化交流基金によって行われているこの事業を、本協会は開始当時より継続して行っており、現在第十八次の訪中団を派遣するに至っている。

今回、事業継続十年を経過したことで、開始当時のプロジェクトの視察に、中国側カウンターパートである中国国際交流センターから招聘を受け、視察団が派遣された。第一次植林現場を始め、中国各地を回り、大きく育った木々を確認して帰国した。団長として第一次から第十八次まで参加した川手正一郎常務理事に、視察訪中記を寄せていただいた。全文をここにご紹介し、報告の第一弾としたい。次号にて、写真と共に詳細な報告を掲載予定。

植林事業一〇周年を迎えて
日本友愛協会常務理事
川手正一郎

はじめに
目の前に緑の森。一体ここは何処なのか。植林現場に到着しても一向に一〇年前の記憶はない。全く別世界に迷い込んだ感じ。

各地のポプラや竹、そして按樹。ポプラは一〇m以上、竹も六〜七m、按樹は二〇m以上に育っている太い幹。記念碑がなければ何処も違う所に案内されたと思えない。

よくぞ育った！
二〇〇五年三月三日の武

穴の竹をはじめとする山の樹林。当時の担当者が砂山を背景に小生と一緒に撮っ

た写真を持参。こんな黄土の大地に育った緑に胸の詰る思いがしました。勿論現

地には、この植林を管理する人達が居り、熱心に今日まで育ててくれているよう

ですが、それにしてもよくぞここまで大きくなった、褒めてやりたい。

二〇〇四年二月二〇日、柳州鹿寨県の緑化地の按樹は、大きなものは小生が抱きかかえられない太さ。

こんな太木を植えた筈はないと思っていました。記念碑から四〜五mのところ、一寸太めの苗木を植えた思い出があります。ここは平均すると直径一〇〜二〇cm、高さ二〇m以上と想えます。

二〇〇一年最初の植林地は増水で河が渡れず遠くか

して視察に参加いただき、絆の強さを確信させて頂きました。柳州では当時直接お世話になった李さんが、今や広西チワン族自治区全青連主席。多忙を極める中、南寧から三時間かけて歓迎のため態々かけつけてくれ、刎頸の交りを痛感。

人間の真情は、国家や民族を越え、全て同じという強烈な印象。植えて良かった、会えて良かった、共に考え汗をかけた心の結びつきに何とも言えぬ感動を味合わせて頂きました。

おわりに
日中緑化交流基金（小湖基金）によるこの植林事業は、日中友好をベースに中国では自然環境と生態系の保護を目的とし、我々もその趣意をしつかり把握、今日に至りました。

また同時に、友愛の目的や活動についても地元の方々と意見交換し、充分ご理解頂いているものと信じております。

植林事業一〇周年を迎え、この事業が果たした成果を評価し、今後は同時に新しい方向も展望できればと願っています。

上と同じ場所の現在。竹は生い茂り、雑草も増え、小鳥の声も

等々、喜びの尽きない各種行事に胸を打たれました。国境を越えた「絆」

また一〇年前、我々と一緒に植樹した市や省の全青連の担当の方々は、今は各省各市のトップや幹部に昇進、大活躍されている。全青連本部の洪桂梅女史は、副主任。北京から万難を排

植林実施当時の写真。後ろの黄土むき出しの山に竹を植えた

また、二〇〇四年から二〇〇七年まで三度訪れた鹿寨小学校、友愛図書室はそのまますべてに整理されていました。校長先生は一〇年前と同じ。

小学生が土曜日も拘らず、熱烈歓迎してくれ、一緒に大きな環境絵画の製作

ず、熱烈歓迎してくれ、一緒に大きな環境絵画の製作

ず、熱烈歓迎してくれ、一緒に大きな環境絵画の製作

ず、熱烈歓迎してくれ、一緒に大きな環境絵画の製作

ず、熱烈歓迎してくれ、一緒に大きな環境絵画の製作

ず、熱烈歓迎してくれ、一緒に大きな環境絵画の製作

ず、熱烈歓迎してくれ、一緒に大きな環境絵画の製作

ず、熱烈歓迎してくれ、一緒に大きな環境絵画の製作

ず、熱烈歓迎してくれ、一緒に大きな環境絵画の製作



日本友愛協会 植林実施地域一覧

◎印は今回視察実施箇所

訪中次	年度	植林活動実施日	実施場所	工期
第1次	12年度	13年(2001): 1月15日(月) ~ 1月20日(土)	広西チワン族自治区／柳州	第1期 ◎
第2次	13年度	14年(2002): 1月25日(金) ~ 1月30日(水)	広西チワン族自治区／柳州	第2期 ◎
第3次	14年度	15年(2003): 1月19日(日) ~ 1月23日(金)	湖北省黄崗市／武穴	第1期 ◎
第4次	15年度	15年(2003): 9月21日(日) ~ 9月25日(木)	広西チワン族自治区／柳州	第3期 ◎
第5次	15年度	16年(2004): 2月10日(火) ~ 2月15日(日)	広西チワン族自治区／鹿寨県	第1期 ◎
第6次	16年度	16年(2004): 6月15日(火) ~ 6月20日(日)	湖北省黄崗市／武穴	第2期 ◎
第7次	16年度	17年(2005): 1月21日(水) ~ 1月23日(金)	広西チワン族自治区／鹿寨県	第2期 ◎
第8次	16年度	17年(2005): 3月 2日(火) ~ 3月 6日(日)	湖北省黄崗市／武穴	第3期 ◎
第9次	17年度	18年(2006): 2月14日(火) ~ 2月21日(火)	湖北省シキ県／三峡ダム 広西チワン族自治区／鹿寨県	第1期 ◎ 第3期 ◎
第10次	18年度	19年(2007): 2月 2日(金) ~ 2月 9日(金)	広西チワン族自治区／柳州 湖北省シキ県／三峡ダム	第4期 ◎ 第2期 ◎
第11次	19年度	19年(2007): 12月13日(木) ~ 12月17日(月)	福建省アモイ市／翔安区	第1期 ◎
第12次	19年度	20年(2008): 2月26日(火) ~ 2月29日(金)	湖北省シキ県／三峡ダム	第3期 ◎
第13次	20年度	20年(2008): 12月12日(木) ~ 12月15日(月)	湖北省シキ県／三峡ダム	第4期 ◎
第14次	20年度	21年(2009): 3月12日(火) ~ 3月15日(土)	福建省アモイ市／翔安区	第2期 ◎
第15次	21年度	21年(2009): 12月23日(水) ~ 12月26日(土)	湖北省シキ県／三峡ダム	第5期 ◎
第16次	21年度	22年(2010): 3月 3日(水) ~ 3月5日(金)	福建省アモイ市／翔安区	第3期 ◎
第17次	22年度	22年(2010): 12月12日(日) ~ 12月15日(水)	湖北省シキ県／三峡ダム	第6期 ◎
第18次	22年度	23年(2011): 3月 2日(水) ~ 3月5日(土)	福建省アモイ市／同安区	第1期 ◎

友愛時評

▼七月は総じて暑いというのが七月に対しての印象である。だから「涼」につながる話題を発展させるのが常套であるが、時評子は敢えて「暑い」、「汗」と連想してみる。▼汗をかくといえ、まずスポーツが挙げられる。先の震災で、諸々の影響もあり、スポーツも自粛方向にあるようだが、若者の意気を思えば、スポーツに取り組み、若者らしい汗をかくことも、心身の健康にまた必要なことでもある。▼しかし、人はなぜスポーツに熱狂するのか、あるいは出来るのか。このあたりは時評子も大いに興味のあるテーマである。暑いなか、炎天下でボールを追いかける、普通に考えれば、酔狂なことかもしれない。しかし例えばサッカーにしても、プレイしている選手はもとより、競技場に足を運び、声を限りに応援している観戦者もまた、酔狂といえる。▼とはいえ、サッカーに限らず、野球、バレーボール等、球技は見ているだけでも楽しいものである。選手の一挙手一投足にハラハラドキドキする。素晴らしいプレイには、思わず手を打っている。観客は、選手と気持ちを一つにして、自分は競技をするという「疑似体験」を楽しんでいるのだらうか。▼選手は、それに応えて、より良いプレイを目指して日々精進し、試合当日に臨み、いかに実力を発揮できるような汗を流しているのだらうか。▼そんなことを思いながら観戦していると、ふと友愛の精神にも近い、気持が通い合い、互いを認めるといった、人間の良さを再認識する次第となる。

(えふ)

東日本大震災で被害にあわれた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。
被災地の日も早い復興、皆様のご健康を、お祈りいたしております。

鳩山邦夫理事長・鳩山由紀夫副理事長 被災地視察

東日本大震災から四ヶ月が経過した。今なお避難所で暮らす方、家族の安否が確認出来ない方など、言葉では語り尽くせない状況が続いている。一日も早い復興と、現地で働く方々の健康を祈らずにはいられない。本協会鳩山邦夫理事長、鳩山由紀夫副理事長はそれぞれの立場から被災地を視察、その思いを『友愛』に寄せられた。ここに全文を掲載し、お二人の思いをお伝えしたい。



哀しみを胸に 鳩山邦夫理事長：被災地にて

日本友愛協会 理事長
衆議院議員

鳩山 邦夫

東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、原発を含めて被災されたり、避難を余儀なくされた皆様に、心からお見舞い申し上げます。

幅200キロ、長さ450キロメートルにわたってプレートートの断層破壊が起きたという、何千年に一度という現象が日本の近海で起きたわけですから、何とも説明できぬ事態だったのであります。

震災直後には、救援物資を被災地に送ることを、何度もお手伝いしましたが、私が宮城県仙台市の被災地を視察に行ったのは、しばらくたってからのことでした。

最初に仙台市消防局のヘ

リが撮影した映像を見ました。津波を警戒して飛び立ったのですが、初めのうちは声の調子も、のんびりとしたもので「まだ津波の兆候もありません」などと放送していましたが、「あ、津波が押し寄せてきています」と、やや緊張したトーンに変わってきましたが、それでも海岸線から幅400メートルもある防風林を、すべてなぎ倒して津波が防風林の内側まで浸入してくるとは予測していなかった様子が放送のトーンから伺われます。要するに、あれほどの巨大津波がくるとは予測不能だったのでしようし、その威力、破壊力も想像を絶するものであったのです。正しく情報を得て、短時間のあいだに高台などへ逃げることは、極めて困難だったと思われます。

私は若林区、宮城野区の被災地を見てまわりました。ガレキの山があちこちに見えますが、それ以外は、ほんとに、ほんとに、すべてが流されて何も残っていないのです。ガレキをよく見てみると、車、家具、おもちゃ、食器など、生活の匂いのしみついたものばかりです。そこには、被災者



富らしく、小学校のカベには、ここで観察できる野鳥たちとして、きれいな絵と鳥の名前が描かれていました。そんな学校生活を巨大津波がすべて破壊尽くしてしまったのです。

私は、その昔、文部大臣をしていましたから、公立学校の新築や増改築に関わってきましたので、つい、うっかりと消防局の方に質問をしてしまったのです。「この学校の建てかえの方針はどうなっていますか」と。

答えはこうでした。「さあ、この近辺には、当分、誰も住まないでしょうから、学校は必要ないのです。この場所に建てることはありません」そうなんです。地域コミュニティを丸ごと破壊した津波が襲ったのですから、この学校も、ガレキの山も、いわば地域コミュニティの墓碑のようなものなのです。愚かな質問をしてしまいました。しかし、そうであるなら、学校を失った子ども達の教育には、特に文科省は予算の重点配分をすべきと痛切に感じています。



何もかも流された被災地にも、いくつかの工場や家屋、ビルが散見できるところがありました。住民の皆さんが戻ってきて、片付けに精を出している姿も見受けられます。私は聞きま

した。「電気は回復しましたか」と。その答えは「いえ、電線を引き直す計画はありません。片付けには来ていても、もう、ここに住む人はいないからです。夜は、誰もいませんしね」電気が不要となるまで、地域が壊れたのかと、あらためて地域社会の墓碑に頭を下げる私でした。

今回は、ここまでにします。あるべき復興策や、原発の問題は別の機会に書かせて頂きます。

(写真提供…鳩山邦夫事務所)

.....

日本友愛協会 副理事長
衆議院議員

鳩山 由紀夫

3・11に突如として起きたM9の大地震そして大津波により、多くの尊い命が失われ、さらに多数の行方不明者を出した東日本大震災から三ヶ月が過ぎました。瓦礫の撤去はいまだ進まず、復興の槌の音どころか、生活再建への目途が立たず仮設住宅にも入居できない大勢の方々が、避難所でなお不自由なお暮らしを余儀なくされています。また、福島第一原発による放射能漏れは依然として止まらず、海洋、土壌の汚染に加え、関東圏を含めた大気汚

染の心配は払拭されず、とくに、一時帰宅さえ容易に許されない住民の皆さんの心中は如何ばかりかと、日本の政治家として、また首相を務めた人間として誠に申し訳なく思っています。

震災から一ヶ月ほど経った4月上旬、福島県南相馬市、飯館村、浪江町、また岩手県北沿岸部の被災地を、限られた物資を携え訪れました。南相馬の津波被害に遭った海岸近くで、ほとんど原型を留めない老人ホームや住宅が連なっていたとは想像だにできない汚泥に埋もれた宅地跡に立つと、テレビ等のニュースが伝えるのとは全く違う、余りにも生々しい、何か、地の底から早く助けて欲しいという悲鳴が聞こえてくるような感覚に囚われ、心が痛み思いを強くいたしました。避難所でも、原発による不安に怯えながら、正確な情報がほしい、早く家に帰りたい、毎日食べていた魚を一月も食べていない、などの声を多くの皆様から伺いました。岩手の野田村でも、村は瓦礫の山と化し、景勝地十府ヶ浦の浜も堤防上の国道も、平行して走っていた三陸鉄道も線路も何もかも残されていませんでした。ご高齢者、働き手世代、子育て中のお母さん達と直にお話しみや要望を聞かせて頂きました。命を守る、国民の生活が第一と申しあげてきて、本当に政治の力が及ばなかったと悔やみきれない思いでした。

この自然災害に対して、想定外であった、という話があります。想定外と言

う言葉は、政治家は使ってはならない言葉です。政治家として、これだけ多くの命を救うことが出来なかったことについて、強く反省しなければなりません。福島原発においては、量的には減少傾向ではあるものの、現在も水による冷却をしているために、放射性物質の流出が続いていることは極めて残念に思います。一刻も早く、放射性物質の流出を止めなければなりません。私はそのための、水によらない熱伝導を利用した放熱による冷却で、放射性物質を閉じ込める新しい仕組みを考えています。世界の叡智も結集しこの難問に答えて行きたいと思

います。チェルノブイリ事故に相当する今回の福島原発事故によって、残念ながら世界の原子力発電政策は少なからぬ影響を受けることになるでしょう。少なくとも日本においては、多くの原発施設が海に面して建設されていることもあり、既存の全ての原発施設の耐震性と巨大ツナミに対する信頼性が徹底的にチェックされなければならぬし、今後かなり長期間に亘って、原発施設の新設は国民感情として認められないでしょう。

今後の原発施設には、どんなことが起きても安全であると断言する思想が徹底して追求されなければなりません。そしてそのことが成就された時にのみ原子力政策は未来の展望を開くことができましよう。

このことは国際社会にも当てはまります。原子力は

国際社会において依然として重要なエネルギー源であります。今回の怒濤のような津波で、その父親と母親は行方不明になり、事務所や給油機は跡形もなく流されてしまいました。この方はそれにも関わらず、悪夢の明けた翌日から、手動の簡易ポンプを使って、幸い無傷であった地下タンクから人力でガソリンを汲み上げ、求める人には無償で給油を始めました。衝撃と悲しみ、そして腕がばんばんに張る痛み、これらに耐えながら笑顔を保ち、孤立した町のガソリン供給に無我夢中で頑張られました。そして、震災から三週間ほど経った3月下旬に、母親は遺体で見つかりました。父親はいまだに見つからないと

地域のエネルギーの拠点として頑張つてこられた方です。今回の怒濤のような津波で、その父親と母親は行方不明になり、事務所や給油機は跡形もなく流されてしまいました。この方はそれにも関わらず、悪夢の明けた翌日から、手動の簡易ポンプを使って、幸い無傷であった地下タンクから人力でガソリンを汲み上げ、求める人には無償で給油を始めました。衝撃と悲しみ、そして腕がばんばんに張る痛み、これらに耐えながら笑顔を保ち、孤立した町のガソリン供給に無我夢中で頑張られました。そして、震災から三週間ほど経った3月下旬に、母親は遺体で見つかりました。父親はいまだに見つからないと

私達が最も大切にしている理念は言うまでもなく友愛であります。他人の痛みを我が身に起こったものとして、同じ痛みをともに分かち合おうという真摯な気持ち、そこには相手の存在をしっかりと認め合うというお互いを尊重し合う気持ちがある。前提であるわけですが、そうした気持ちを持ち、そうした気持ちに基づき行動を取ることの大切さをいつも感じています。

今回の被災地に宮城県南三陸町があります。今回の津波で最も痛ましく被災した地域の一つです。その地に父親の代から45年間、ガソリンスタンドを経営している方がいらつしやいます。リアス式海岸の山村で、

自分の悲しみよりも、困っている他人を見捨てておけない、そう思われたに違いないこの方の心は、友愛の究極の姿だと思っています。

今、被災地で、そして日本全体で、友愛の大きな高まりが被災した全ての人たちを温かく包み込んでいます。このうねりを絶やしてはなりません。何年かかるやも知れない復興に向けて、国民一人ひとりが友愛の心を繋いでいくことが肝要です。

今回の大震災は1000年に一度の大災害と言われていますが、実際にはこの地域は120年間に3度同規模の地震・津波を経験しています。政治や行政が責任逃れに使っているように

も聞こえます。さらに大変深刻な原発の事故を招いてしまったという意味で、単なる自然災害ではありません。ただ地球上には自然災害のみならず様々な人災、さらには様々な背景をもった地域紛争、そういった人類の生存を脅かす悲しい事象が常に起きています。友愛の心を持ち行動することが、今ほど世界に求められている時はありません。

そのような意味でも、一般財団法人日本友愛協会が発足したことを契機に、友愛の実践を皆さんと共に進めてまいりたいとあらためて固く決意しております。倍旧のご理解とご指導をお願いいたします。

七月五日（火）帝国ホテル舞の間に於いて、勳章授与式が行われ、来日したナリイシキンロシア連邦大統領府長官より、鳩山由紀夫副理事長に「ロシア連邦友好勳章」が贈られた。これは鳩山由紀夫副理事長がこれまで果たしてきた、ロシアとの友好関係発展の尽力に対して贈られたもので、大変名誉な勳章であるといえる。当日式典の会場には、ペールイ駐日ロシア大使を始め、関係各位が参列し、厳かな授与式となった。本協会からも川手正一郎常務理事を始め数名が出席、喜びを共にした。ここに「この勳章は日本友愛協会が戴いたものです」との鳩山由紀夫副理事長の挨拶（抜粋）、及びナリイシキンロシア連邦大統領府長官の挨拶（抜粋）を掲載し、式典の様子をご紹介します。

鳩山由紀夫副理事長 ロシア連邦友好勳章受章

「更なる努力をせよと戴いたものです」



七月五日（火）帝国ホテル舞の間に於いて、勳章授与式が行われ、来日したナリイシキンロシア連邦大統領府長官より、鳩山由紀夫副理事長に「ロシア連邦友好勳章」が贈られた。これは鳩山由紀夫副理事長がこれまで果たしてきた、ロシアとの友好関係発展の尽力に対して贈られたもので、大変名誉な勳章であるといえる。当日式典の会場には、ペールイ駐日ロシア大使を始め、関係各位が参列し、厳かな授与式となった。本協会からも川手正一郎常務理事を始め数名が出席、喜びを共にした。ここに「この勳章は日本友愛協会が戴いたものです」との鳩山由紀夫副理事長の挨拶（抜粋）、及びナリイシキンロシア連邦大統領府長官の挨拶（抜粋）を掲載し、式典の様子をご紹介します。

本日、ナリイシキン大統領府長官閣下より、ロシア連邦政府から、私に対して、友好勳章を授与してくださいましたことを、心から感謝を申し上げます。

ナリイシキン大統領府長官閣下からお話があったように、この大変有難い勳章を頂戴いたしました。これは私個人に頂いたというよりも、鳩山の今日までの三代、四代続いたロシアとの友好の証であり、さらには、その祖父がこよなく大事に考えておられた友愛精神、その精神を引き継いで今、大変な活動をしていただいております日本友愛協会に頂戴をしたものだ

先ほどお話がありましたように、そのスタートは言うまでもありません。祖父、鳩山一郎が一九五六年、日ソ共同宣言を、友愛精神に基づいて、当時のソビエトとの間で交わしたことにスタートをいたします。

日本とロシアとの間には、協議の結果、平成二二年度決算報告書案を同報告書とすることを全会一致で承認決議した。（平成二二年度決算報告書HP掲載）

第3号議案平成二三年度軽井沢友愛山荘補修工事の件
協議の結果、平成二三年度軽井沢友愛山荘補修計画を遂行することを全会一致で承認決議した。

第4号議案平成二三年度補正予算の件
協議の結果、平成二三年度補正予算採択を全会一致で承認決議した。

第1号議案 平成二二年度事業報告書の件
（1）事業報告書案概要説明 理事長 鳩山邦夫
（2）事業報告書監査報告 監事 長田正太郎

（代表理事及び業務執行理事の職務執行報告）
代表理事鳩山邦夫副理事長が、業務執行理事鳩山由紀夫副理事長、川手正一郎常務理事、鶴巻克雄常務理事の職務執行報告を併せ、代表して行った。

【協議事項】
（2）決算報告書監査報告 監事 奥住壽

（代表理事及び業務執行理事の職務執行報告）
代表理事鳩山邦夫副理事長が、業務執行理事鳩山由紀夫副理事長、川手正一郎常務理事、鶴巻克雄常務理事の職務執行報告を併せ、代表して行った。

【報告事項】
（定款第34条第6項）
（代表理事及び業務執行理事の職務執行報告）
代表理事鳩山邦夫副理事長が、業務執行理事鳩山由紀夫副理事長、川手正一郎常務理事、鶴巻克雄常務理事の職務執行報告を併せ、代表して行った。

（代表理事及び業務執行理事の職務執行報告）
代表理事鳩山邦夫副理事長が、業務執行理事鳩山由紀夫副理事長、川手正一郎常務理事、鶴巻克雄常務理事の職務執行報告を併せ、代表して行った。

（代表理事及び業務執行理事の職務執行報告）
代表理事鳩山邦夫副理事長が、業務執行理事鳩山由紀夫副理事長、川手正一郎常務理事、鶴巻克雄常務理事の職務執行報告を併せ、代表して行った。

（代表理事及び業務執行理事の職務執行報告）
代表理事鳩山邦夫副理事長が、業務執行理事鳩山由紀夫副理事長、川手正一郎常務理事、鶴巻克雄常務理事の職務執行報告を併せ、代表して行った。

（代表理事及び業務執行理事の職務執行報告）
代表理事鳩山邦夫副理事長が、業務執行理事鳩山由紀夫副理事長、川手正一郎常務理事、鶴巻克雄常務理事の職務執行報告を併せ、代表して行った。

（代表理事及び業務執行理事の職務執行報告）
代表理事鳩山邦夫副理事長が、業務執行理事鳩山由紀夫副理事長、川手正一郎常務理事、鶴巻克雄常務理事の職務執行報告を併せ、代表して行った。

（代表理事及び業務執行理事の職務執行報告）
代表理事鳩山邦夫副理事長が、業務執行理事鳩山由紀夫副理事長、川手正一郎常務理事、鶴巻克雄常務理事の職務執行報告を併せ、代表して行った。



日口友好が大きく前進



友愛関係者と記念撮影

懸案であります交通問題、渋滞問題に対して、それなりの仕事をさせていただくことができた嬉しく思っています。さらに、鳩山の五代目は、モスクワで昨年、誕生いたしました。

この友愛精神をこれからも、私ども、きょうお集まりの皆さんとともに大事に発展させていきたいと誓うものでございます。

きょうはナルイシキン大統領府長官閣下、さらにペーリイ大使閣下はじめ、皆さん方おそろいでお集まりいただく中で、すばらしい勲章を賜りましたことを重ねて御礼を申し上げます。

ボリショイ・スパシーバ（本当にありがとうございます）。

.....

ナルイシキン ロシア連邦大統領府長官挨拶

鳩山閣下、親愛なる友人の皆さん、皆さんにお伝えする大変喜ばしいことがあります。ロシアと日本の友情と協力に関わる関係の発展に多大な貢献をされたことを祝い、ロシア連邦大統領令に基づいて、鳩山閣下に友好勲章を授与すること

になりました。

鳩山閣下は、ロシアとの友好的な関係の発展が大変重要であると考えてこられました。このような活動を通じて、鳩山家の皆さんは、ロシアと日本の友好関係の伝統を継続していただきました。まず、先生の祖父でいらつしやる鳩山一郎先生のこと、ロシアではロシアと日本の友好のためにご尽力下さった方として国民は覚えております。また、閣下のお父さんの鳩山威一郎先生も、いろいろとロシアと日本の友好のためにご活躍をされました。

さらに、民間外交の面では日口協会の会長を務められ、また、二〇〇八年、九年にわたって、ロシア文化フェスティバルの組織委員長としての役割も、大変大きな貢献であると申し上げます。

鳩山閣下、ロシア連邦メドベージェフ大統領の委任を受けて、ロシアと日本の交流の強化のためにご活動、ご活躍して頂きましたことに感謝を表するとともに、閣下に友好勲章を授与させていただきます。

友愛婦人会だより

平成23年度総会開催 防災・減災を勉強

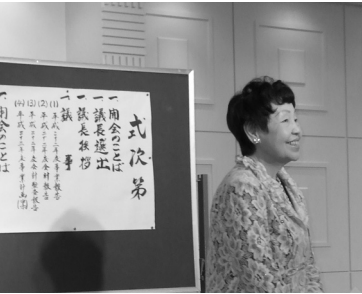


平成二十三年五月二十四日（火）晴れ間は広がっているものの、時折の驟雨、定まらないお天気の中、目白椿山荘にて友愛婦人会平成二十三年度総会を開催いたしました。

生憎の天候で、鳩山安子会長のご出席は叶わず、残念でございましたが、会員五十五名が出席し午前十一時三十分より開会いたしました。

本富士支部／鈴木和子の司会進行にて、種田英子副会長挨拶の後、議長を選出し、富坂支部／白石敏子が議長に選出され議事を進行致しました。

平成二十二年度事業報告を富坂支部／渡辺悦子が行



挨拶する大川米子幹事長

い、二十三年度事業計画を大塚支部／鳥海益恵が発表いたしました。次いで駒込支部／水口紀美子、大塚支部／小峰秀子の会計担当の両名が二十二年決算報告を行いました。これを受け、富坂支部／諏訪あき副会長が監査報告を行い、滞りなく処理されている旨が報告されました。

二十二年事業報告、二十三年度事業計画、二十二年決算報告の三件は、全員一致で、承認され、無事総会を終了いたしました。

大塚支部／田近静枝の発声で、友愛婦人会の発展と鳩山安子会長はじめ皆々様のご健勝を祈念して乾杯、楽しく和やかな昼食の時間となりました。

午後一時三十分より、大川米子幹事長の司会進行で、第二部に移りました。

大川幹事長は挨拶で「私たち友愛婦人会も『友愛』で鳩山邦夫先生がおっしゃっていたように、友愛を改めて勉強していきましよう。それが今年の事業計画の基本です」と話され、参加者一同、心して再び友愛を学ぶ決心をいたしました。

第二部「防災に備えての心の準備」の演題で、文京区危機管理室防災課／竹田弘一課長に講演していただき



小峰（左）水口（右）両会計担当の報告

きました。まさに時宜を得た内容で、皆熱心に聞き入っております。

この春に起きた東北関東大震災の経験を踏まえ、「減災のてびき」（註：防災が被害を出さない取り組みであるのに対して、減災とはあらかじめ被害の発生を想定した上で、その被害を低減させていくとするもの）の資料をもとに、気付かなかった多くのことを学ばせていただきました。特に「自分の身は自分で守る……自助」、「地域や身近にいる人同士が助け合う……共助」が、災害の折には重要であることが身にしみて理解出来ました。併せて文京区の防災地図を配布していただき、心構えとしても、「防災・減災」がしっかりと刻まれました。

東北関東大震災への災害義援金を募りましたところ、皆様からのご協力を得て、四万一千八百二十三円の募金がありました。日本赤十字社に義援金として寄付させていただきました。

午後には雨もすつかり上がり、新装なった椿山荘の三重の塔も美しく光を受けているのを眺めながら、午後三時閉会となりました。五々帰途につきました。

（友愛婦人会 記）

友愛山荘

秋の予約受付中!!

浴室改築完了！
綺麗で安全なお風呂

本年度の本協会事業計画に、友愛山荘の大きな改装が盛り込まれ、その第一期工事である「浴室・浴槽の改築」が完了しました。一寸入りにくかった浴槽も、床と同じ高さになり、安全、安心設計が施されました。既にご利用された方からは、ご好評をいただいております。是非お越しください、温泉気分になれる新しいお風呂をお楽しみください。

軽井沢は紅葉も見所！
軽井沢友愛山荘は、現在秋の予約を受け付けております。

秋の軽井沢は、見事な紅葉に彩られ、紅葉の名所といわれる場所に劣りません。その割には人も夏場より少なくなり、いわば紅葉の穴場といえます。特に、廃線になった横川―軽井沢間の鉄道の代わりに走る路線バス（碓氷峠を越える）から見える景色は絶景です。紅葉のトンネルを味わいに軽井沢へ是非！

第22回友愛ドイツ曲（ドイツ）コンクール案内

本年度も友愛ドイツ歌曲（リート）コンクールを開催いたします。本年度は新たにドイツで活躍中の小松英典先生を審査員にお迎えいたしました。

皆様お誘い合わせの上ご来場ください。本選会のチケット等詳しくは事務局までお問い合わせください。

*本協会ホームページにも詳細が掲載されております

―第一次予選（無料・要整理券）―

十月二〇日（木）
文京シビック小ホール
午前一〇時三〇分～二〇時
―第二次予選（無料・要整理券）―

十一月四日（金）
旧東京音楽大学奏楽堂
十五時～二〇時
―本選会―

十二月十四日（水）（有料）

―復興めざし
列島が北国の春大合唱
―朝はここから
復興の妙薬はラジオ体操
―芸能人大集合
列島に復興の歌大合唱
―圧倒するパリーグ
セントラル交流戦でこぼれ落ち
―世代交代
タワ―からツリーに移る水
平線

時事川柳 服部迪夫 作

編集後記

◆震災から一二〇日が過ぎた。しかし、復興と原発の方向は定かでない。心のうちは瓦礫の山、ストレスの捌け口が見えない。日本は必ず復興すると関係機関は唱えるものの、被災者の現実には変らない。青春の時代、長閑な三陸を映写機と無医村歯科診療を通して、村の人達と交流した思い出と現実の乖離。何故か空しい。いくら頑張れとコールしても、ほんとに被災者の心と日常生活を共有できない厳しさと淋しさ。只々堪えて下さいと祈る。無念。（K）

◆3・11以来、電力不足対策のために友愛事務所でも節電を心掛けています。二台あるエアコンのうち一台のみを使用し、設定温度も二八度以上の設定にしてみました。友愛事務所の所在する東京が七月九日に梅雨明けした。さすがに暑い。聞くところによると、今夏は昨年同様の猛暑となり九月中旬までその暑さは続くらしい。長期戦になりそう。会議や外出予定のない日は、スーパークール・ビズで対抗することにしよう。来所なさる皆様、ご容赦ください。（GO）

◆植林活動十年経過、視察に同行。あの凍った河原に植えた竹は流石に……と思っていたら、同じ場所とは思えない別の世界、緑の生態系が出来上がっていた。感激！ 十年の年月を実感。記念碑に刻まれた文字も、風雨にさらされて年月を感じる。別の現場も同様！ 実行すること、継続することの力を再認識した。現地で樹木の世話をしてくださっている方々の日に焼けた笑顔に感謝、多謝。（も）